

成果指標				
成果指標	(当該年度の米生産面積+当該年度の種子麦生産面積)÷(前年度の米生産目標面積+前年度の種子麦生産面積)×100			
指標設定の考え方	当該年度の米と麦の生産面積と前年度の米と麦の生産面積を比較することで事業効果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	100%以上	100%以上	0	0
実績	105.4%	99.8%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	国の米政策の転換について注視し、応じた情報提供や施策の変更・推進、また戦略作物への転換支援等が必要となる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	次年度から国の米政策が転換されることとなっており、これに応じて、本事業も集落推進費等の事務費について修正を図っていく必要がある。なお、戦略作物である麦の生産拡大に関する事業については成果も上がっており、引き続き推進する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題